不定期刊行　　第439号　2012.02.01

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

寒中の黒沢尾根、ラッセルと雪上生活

大町・木曽青峰・池工山岳部合同雪山合宿

12 月に行なわれた「中信安全登山研究会」の中で、「複数の学校に『冬山』に登りたい生徒がいる」ということが話題になった。そこでニーズに応えるべく、合同合宿を組むことが提起されたのだが、それを受けての合同冬山合宿を１月 28 日（土）から 29 日（日）、鹿島槍スキー場上部黒沢尾根で計画をしたところ、大町、木曽青峰、池田工業の３校（大町は日帰り）が集まった。黒沢尾根を場所に選んだのは、ちょうど１週間前に山岳総合センターの講師研修会が同じ場所で行なわれており（このことについては別に報告したい）、下見ができたからというのがその理由である。

28 日朝、この一週間断続的に降り続いた雪がこの日も降り続いていた。そんな中を「雪の状態を見て危険ならばスキー場の中での訓練や幕営もありか」と考えながら学校に向かうと、すでに３名の生徒が部室で準備をしていた。定刻よりやや遅れて 8:40 学校発、駐車場に到着するとすでに他の２校は準備万端。挨拶もそこそこにリフトに乗りこんだ。大町は生徒 6、顧問 3、木曽青峰は生徒顧問が各 1、池工は生徒 3、顧問 2 総勢 16 名である。まず全員にビーコンの装着をさせ、電波の送受信チェックの方法を調べるところからスタートだ。ちなみにビーコンとプローブは高校生の技術講習会をするということを認めていただき、山岳総合センターから借用した。

日帰りの大町は、少し先を急ぎたいということで早速山の中へ入ったが、残る２校は今日は雪山体験と訓練ゆえ慌てることもない。スキー場内の林の中で、雪質観察をした。先週の講師研修会の際には積雪は僅か 100cm と例年の半分程度だったが、今週一週間で上載積雪は 50cm近くにはなったものと思われる。スノーピットを掘って見ると 135cm で地面に到達した。早速生徒には雪が層になっていること、内部には温度勾配があってそれが弱層を作ることなどを、実際に触れて硬さを確かめ、雪温計で測ることで分からせる。そして、弱層テストもして見せてこのように上載積雪がたまったとき、表層雪崩が起きやすいので注意せねばならないことをしっかり教える。

雪は相変わらず降っていたが、ワカン（スノーシュー）を装着し、12:50 ゲレンデトップから黒沢尾根に取り付く。大町高のラッセルのトレースを辿るのだが、それでももぐる。猛烈なラッセルにわずか 600mほど進むのにおよそ 30 分と苦戦したが、当初計画通り、旧青木湖スキー場トップにあたる 1550mの扁平なピークにベースキャンプを設営した。ここまで来るだけでスキー場の喧噪からは解放され、別天地である。テントを張り終えたのが 14:00、ちょうどそこへ大町高校の一行が戻ってきた。「いいラッセル訓練になりました。1599 ピークまで行くのがやっとでした。でも、この寒い中

下山する大町高校隊

泊まるんですね、頑張って下さい。」とは小沼Tの言。9人の大部隊、サブ行動でもそこまでとはやはり1月である。14:10大町部隊を見送り、テントに入ってやや遅い昼食とした。予定ではこのあと、ビーコン捜索訓練などをしようと目論んでいたのだが、雪が降り続いており、斜面に入るのもはばかられたので、テントに沈殿とした。池工は6テンに5人、木曽青峰は3テンに2人。水作り、テント内の私物の整理、如何にテントの中を濡らさないか、雪上のテント生活は経験がものをいう世界。それらを少しでも盗んで欲しいと思う。16時天気図を取って明日の天気を予測する。あまりよろしくない。しかし無理をすることもない、最悪ここから下りても何の問題もないのだから。17時ころ、雪も小降りになてきた。夕食前に少しは身体も動かさないと食い物も入らないと考え、生徒に「どうだ、雪洞掘ってみないか？」と焚きつけてみる。乗って来た生徒が2名。小生も含めて3つの雪洞が出来上がる頃には夜陰が迫ってきた。しかし相変わらず冷たい雪が降っている。雪もまだ締まっていない時期でもある故、雪洞泊は次回のお楽しみとテントに戻って夕食の準備。池工の食事はブリと根菜のたっぷり入った雑煮、木曽青峰は蔵元で仕入れてきた木曽の銘酒七笑の酒粕をたっぷり使った粕汁。どちらも出色のできばえであった。お互いに鍋をつつきあい、いいテント交流ができた。

一夜明けて29日は、曇り。午後また崩れそうだったが、なんとか午前中はもちそうだ。8時少し過ぎにテント場を出発。ここからは読図が面白い。昨日の大町のラッセルのトレースは敢えて辿らせず、新しいところをラッセル訓練をしながら行けと命じ、1599mピーク、1580mピーク（通称ボトル台地）を経て1665mを目標において進ませる。BCを置いたピークはすでに述べたように扁平なピークで何の気なしに進むとそのまま東に進み、旧青木湖スキー場へ降りてしまう。昨日のミーティングでそのことを言っておいたのだが、案の定東へ進んでいる。暫く進んだところでニヤニヤしながら、コンパスで進むべき方向を確認させ、間違いを指摘し戻らせる。9:10、1599mピークの台地に出た。昨日以上に猛烈なラッセルである。自分のワカンを踏んでぶっ倒れる生徒、踏んでも踏んでも足場ができない雪に悩まされるトップ。しかしみんな雪と戯れながらそれなりに楽しんでいる風である。

10:20、苦労の末にようやく1580mピークに到着。まさかここまでこれほど時間がかかるとは・・・まさに想定外。下りのこと、木曽青峰の帰りのこと、更には天候の悪化のことなども考え、本日の行動はここまでとする。10:40に1580mピーク出発。12:00、BC到着。撤収。その後、若干ビーコン捜索訓練をし、13:10にBC出発、13:35にはゲレンデトップに到着。このころから天気は急変し、予想通り猛烈な吹雪となった。這々の体でゲレンデを下り、駐車場に着いたのは14:30であった。